

教科名〔 国語 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
国語表現	2 単位	第 3 学年 1 ～ 6 組の選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自分自身の内面を見つめ、思考を深め、精神的世界を豊かにする。また、その思考したことを整理し、文章によって自己を表現する力を付ける。 論説文を読み取る力をつける。またその学習を通して、自分自身の主張を形成し、それを論理的に表現する力を付ける。 語彙を増やし、文章表現のための基礎知識を学習する。 手紙の書き方、電話での応答、敬語の正しい使い方等、社会生活に必要な表現のスキルを習得する。
使用教科書・副教材等	「15 三省堂 国語表現 008」 桐原書店「高校生必修語彙ノート」 担当教諭作成のプリント

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点の ポイント			
						態 度	関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現
第 1 学 期	1 「わたし」のことを語る [演習1] 200字程度で自己アピールを作成する。 担当教諭の自己アピール レクチャー 題材・材料の選択、主題・構成(tex. pp.1～8) [演習2] 自己分析=個性・趣味・進路・将来の夢・現在の生活etc. 担当教諭の作成したプリントの問に答える形で自己を描き出していく。 レクチャー 原稿用紙の使い方(tex.見返し前・作成プリント) [演習3] 原稿用紙の使い方(作成プリント・) [演習4] 自己アピール再作成 400字程度 発表 (自宅学習「語彙ノート」pp.4～19)	4 ・ 5	いろいろなことを学習する前の白紙の状態で自己アピールを書いてみる。 具体的な例に接して考える。 自己アピールをするために必要な準備、作業について学習する。 自己分析をすることによって自分を対象化し、自分についての具体的な像を描く。 ・ 自己の内にある思想・情緒を他者に正しく伝えるためのルール等を学び、練習する。 ～ の過程を経てしっかりとした目的意識を以って作成する。 大勢の前で自己を語ることで、自己についての認識をより深める。	1. 「学習内容」 は、単に生徒に実例を示すためだけでなく、担当教諭自身が自己を生徒に語ることによって生徒とのコミュニケーションを図る。 2. 担当教諭作成の課題プリント	第 1 学 期 中 間 考 査	○	○	○	○
	2 新聞に投書してみよう [演習1] 論説文のサマリーを作成する。 新聞の読者投書欄に掲載された意見、時事問題に対する専門家の意見などを教材とする。 また担当教諭によってサマリーの模範例を提示し、要点を指導する。	6 ・ 7 ・ 8	身近な一般市民の意見の読みとりから始まり、少し高度な評論の要約まで練習して、論理的な文章に慣れる。 1 - に続いて、表現の技法を習得して、よりの確な表現を目指す。	1. まだ自分の主張を明確に持てていない生徒、客観性を獲得していない生徒が多くいると思うが、論説文を多く読む過程でそれらを形成させたい。	第 1 学 期 末 考 査		○	○	○

	レクチャー 段落の適切な区分・文の構成・区切り符号・意見文の作成(tex.pp.9～17 pp.87～99・作成プリント) [演習2] 複数のテーマから関心のあるものをひとつ選んで意見文を作成する。400～500字程度→清書して印刷、製本 3就職・進学時の面接・作文の練習 レクチャー 敬語の使い方(tex.pp.35・作成プリント) [演習1] 敬語の使い方(作成プリント) [演習2] 想定した面接官の問に対する答えを作成する。(作成プリント) よく出題される課題の作文の練習) (自宅学習「語彙ノート」pp.20～39)		自分の主張を明確にする。またそれを人に伝えるために、論点を整理する。正しい言葉遣いに努める。 社会生活に必要な敬語を正しく習得する。 想定される問に対する答を文章化することによって、実際の面接時にすらすらと答えられるように、また想定外の問に対しても応用力を発揮できるように力を付けておく。 と同様の趣旨で作文の練習をする。					○	○	○
第2学期	4社会生活に必要な表現のスキル レクチャー 手紙の書き方(tex.28～30 作成プリント) 儀礼的な手紙を書く際を守るべき形式などを学ぶ。 [演習1] 儀礼的な手紙の例文の模写 卒業祝い・工場見学・採用内定通知等に対する礼状の作成 [演習2] 電話のかけ方(作成プリント) ホテルのフロント、通販の電話受付、会社の事務員などの役割を想定し、電話での対応をシミュレーションする。 (自宅学習「語彙ノートpp.40～59」)	9・10	友人や恋人に出す手紙は、形式にはさほどこだわる必要はなく、むしろ情緒を重んじる方が良いと思われるが、儀礼的な手紙の場合は、正しい形式にのっとらないと、相手に失礼である。ここでは、必要最小限の形式について学ぶ。 電話は相手の姿が見えない状態で、臨機応変に対応することが求められる。仕事の電話であれば、さらに正しい敬語の使い方も必須である。演習の中でそういった意識を養成したい。	1. は、理論よりも実践によってより高い能力が養成される性格の学習であるので、できればロールプレイをやりたい。	第2学期中間考査				○	○
	5情報手帳で伝えよう、学校生活の知恵 レクチャー 情報の収集・整理と伝達について(tex.pp.80～86) [実習1](グループ作業) 3年間の高校生活を振り返って、後輩に伝えるべき情報を出し合う。出された情報を分類整理する。 [実習2] クラス全体で情報を整理し、一冊の情報手帳に仕上げる。	10・11・12	～ 終りに近づいてきた高校生活を整理し、まとめて対象化する。後輩に伝える情報という発想で作業を進めることによって、情報の軽重の判断をしやすくする。最後の学習となる各自の個人的な高校生活の総括(6卒業スピーチ)を準備するものとなるはず。	1. グループで作業をすることで、ブレインストーミングを体験させる。	第2学期期末考査	○	○	○	○	

	[実習3] 各自分担して清書し、印刷する。 6卒業スピーチ(私の答辞) レクチャー 卒業制作について 表現に関する基本知識 (tex.pp.64) [演習1] 卒業スピーチの材料の整理=高校生活で得たもの・成長した面・学校で学ぶ意味・将来の夢・高校生とはetc. (作成プリント) [演習2] 卒業スピーチの作成 800字程度 2度原稿を提出して、最終的に印刷用の清書原稿を作る。 (自宅学習「語彙ノート」pp.60～79)		～ 自己分析から始まった国語表現の学習の総仕上げとして位置づけている。3年間の高校生活を距離をおいて見つめなおし、自分の成長の過程を客観的に捉える。時々学習した表現の基本的スキルも駆使して、1人1人の答辞を作成する。						
第3学期	[演習3] 卒業スピーチ集の作製 各自がクラス全員のスピーチを集めたものを、工夫を凝らして製本する。 [演習4] 自分の作製した答辞をクラス全員の前で発表する。 (自宅学習「語彙ノート」pp.80～107)	1 ・ 2	製本は国語表現の学習からは一定程度はずれるかもしれないが、自分達の1年間の学習の総仕上げである卒業スピーチを、本にして残しておくことに意義があると思うので、授業の一環に組み入れた。 表現の一形態であるスピーチで1年間の学習を締めくくりたい。		学年末考査			○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 演習時の全ての課題。									
【1・2・3学期における評価方法】 課題 《軽い課題》提出点→15点満点に換算=平常点 《重い課題》各100点満点で評価→70点に換算 定期考査 年3回 各100点満点→15点満点に換算 国語表現は、日々の授業の中で課題に取り組むことが最も重要な学習事項であるので、全体の成績のうち課題評価点を70%とする。その他は、平常点15%、定期考査の得点15%とする。 1・2・3学期の成績の出し方は、内規通り。									

教科名〔 国語 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
現代文	2単位	3 学年 1～6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日本語の基礎となる、言葉の正しい意味、漢字、基本的な文章表現などを修得する。 日本語の文章を正しく読み取る。 評論文の学習を通して思索を深め、自己の思想・アイデンティティを形成する。 文学作品の学習を通して、人間の思想・情緒・生き方等について学び、人間・人間社会・人生について探求する。 自己の考えを論理的に正しく他者に伝える能力を身につける。
使用教科書・副教材等	第一学習社『標準現代文』 東京書籍『新総合図説国語』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1．学習活動 の特記事項 2．副教材の 使用など	考 査 範 囲	評価の観点 の ポイント				
						態 度	関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	(随 想) 「ワスレナグサ」星野道夫 「食と想像力」辺見庸 ・漢字、難しい語句の意味確認 ・内容読み取りプリント ・漢字小テスト	4	・文章の基本的な流れや、主題を把握するた めに、読解力を養う。 5 ・文章の中からそこに書かれた問題点を正し く見つけ、それについて考える心を養う。 ・筆者の体験を追体験することで、現代社会 について考える糸口とする。 ・自学自習課題について、小テストを実施 して達成度を計る(以下同じ)。		第 1 学 期 中 間 考 査	○				○
	(小 説) 「こころ」夏目漱石 ・漢字、難しい語句の意味確認 ・内容読み取りプリント ・漢字小テスト ・作品の面白さを味わう。	5 6 7 8	・近代の代表的な小説を読解・鑑賞する力を 身につける。 6 ・小説表現の豊かさを学び、以後の読書生活 に反映させる。 7 ・小説世界を自分に引きつけて考える態度を 養う。 8		第 1 学 期 期 末 考 査	○				○
第 2 学 期	(評 論) 「夢見るダイバー人形」 高木のぶ子 「経験の教えについて」 森本哲郎 ・漢字、難しい語句の意味確認 ・内容読み取りプリント ・漢字小テスト	9 10	・筆者の論の展開のしかたを理解し、読解の ポイントをおさえる。 1 ・筆者の関心や問題意識を受けとめ、自己の あり方について見つめ直す。		第 2 学 期 中 間 考 査	○		○		○

	(小説) 「山月記」中島敦 ・漢字、難しい語句の意味確認 ・内容読み取りプリント ・漢字小テスト ・作品の面白さを味わう。	1 0 1 1 1 2	・短編小説の持つ緊密な構成を理解し、鑑賞を深める。 ・文章表現の豊かさを味わい、想像力・感受性を豊かにする。 ・主人公の性格を分析して、その人物像を把握する。		第2学期期末考查	○			○
第3学期	(評論) 「ユーモアと笑い」阿刀田高 「メディアに軽重はあるか」杉本卓 ・漢字、難しい語句の意味確認 ・内容読み取りプリント ・漢字小テスト	1 2 3	・論理的な文章の構成、論の展開を把握し、筆者の主張を的確に読み取る。 ・現代社会に対する関心や問題意識を喚起し、意識的に考える態度を養う。		学年末考查	○	○		○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業で使用したすべてのプリント。ノート。長期休暇中の宿題。その他折々の課題。									
【1・2・3学期における評価方法】 定期考查(約70%) 平常点(出欠・授業中の態度・提出物等 約30%) 1・2・3学期の成績の出し方は内規通り。									

教科名〔 国 語 〕

科 目 名	単 位 数	学年・組	担 当 者 名
古典	2単位	3 学年 1～6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	古典的語彙を豊かにし、古典文法の学習を深める。 古典的名作を読み、固有の情緒や、描かれた文学的世界を味わう。 書き下し文、句法等漢文の基礎を学習する。 日本と中国の古典の面白さを発見する。
使用教科書・副教材等	第一学習社『標準古典』 東京書籍『新総合図説国語』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学 期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1．学習活動 の特記事項 2．副教材の 使用など	考 査 範 囲	評価の観点 の ポイント				
						態度・ 関心・ 意欲	思考・ 判断	技能・ 表現	知識・ 理解	
第 1 学 期	「わらしべ長者」 (『宇治拾遺物語』) ・脚注を参考にしながら口語訳をする。 ・内容の面白さを理解する。 ・用言の活用形を、しっかり学習する。	4	・昔話として広く知られている古文教材を通して、古文への興味・関心を深める。 5 ・比較的長い説話を読んで大意を把握する力を養う。 ・各説話の主題を考えた上で、それぞれの面白さを味わう。		第 1 学 期 中 間 考 査	○				○
	「延喜の帝」 「道隆と福足君」 「弓争ひ」 「三舟の才」 「鶯宿梅」 (『大鏡』) ・用言の活用 ・動詞・形容詞・形容動詞の特質を学ぶ。 ・それぞれの活用形を覚える。 ・口語訳をする。 ・作品の面白さを味わう。	5	・歴史物語のおもしろさにふれる。 ・『大鏡』独特の戯曲的設定を認識し、その効果について考える。 ・敬語表現や会話独特の文末表現に注意して読み味わう。 ・生徒に親しみのある作品を用いて、用言の学習の基礎を学ぶ。 ・脚注と文法知識を活用して、口語訳を試みる。 ・登場人物の心情を理解する。		第 1 学 期 期 末 考 査	○				○
第 2 学 期	「故事・寓話」 『朝三暮四』 『画竜点睛』 『推敲』	9	・故事・寓話・古代の史話を学ぶ ・訓点の働きを復習する。 1 ・特に、レ点、一二点を中心として、訓点の働きを理解する。 0 ・しっかりと書き下し文に直す。		第 2 学 期 中	○	○			○

	「古代の史話」 『管鮑之交』 『背水之陣』 ・訓点の働きを理解する。 ・原文を書き下し文に直す。 ・難しい熟語の意味を調べる。 ・全体を訳す。		・話の展開を理解する。 ・内容の面白さを理解する。 ・やや長い漢文を読解する力を身につける。 ・登場人物相互の関係を正しくとらえ、それぞれの人柄や心理を理解する。		間 考 査					
	『源氏物語』 「光る君」 「夕顔」 「若紫」 「明石の君と姫君」 ・動詞・形容詞・形容動詞、それぞれの活用形を答える。 ・口語訳をする。 ・作品の面白さを味わう。	1 0 1 1 1 2	・長編物語のおもしろさを読み味わう。 ・主人公・光源氏の青年時代が、どのような女性たちとのかかわりの中で構成されているかととらえる。 ・作品人物の心理を理解する。 ・文に頻出する用言について知的理解を深める。		第 2 学 期 期 末 考 査	○				○
第 3 学 期	『蜻蛉日記』 「汔坏の水」 『紫式部日記』 「日本紀の御局」 『和泉式部日記』 「夢よりもはかなき世の中」 ・難しい語句を辞書で調べる。 ・文法知識を活用して、口語訳をする。	1 2 3	・日記に記載された事実から、書き手の人柄や心情を読み取る。 ・平安貴族の知性に触れる。 ・平安中期から鎌倉中期までの代表的な女流日記文学を読み味わい、その特色を理解する。 ・それぞれの作者の生きた時代や、立場の違いにも注目し、各作品にこめられた作者たちの思いを読み取る。 ・日記文学の多様性にふれる。		学 年 末 考 査	○	○			○
【１・２・３学期における課題・提出物等】 授業で使用したすべてのプリント。ノート。長期休暇中の宿題。その他折々の課題。										
【１・２・３学期における評価方法】 定期考査(約 70%) 平常点(出欠・授業中の態度・提出物等 約 30%) １・２・３学期の成績の出し方は内規通り。										

教科名〔 地歴・公民 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
倫理	2 単位	3 年 1,2,3 組選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生徒が自分の「生き方」・「在り方」について主体的に考えるための基礎的な知識と考え方を身につけさせる。 「現代社会における倫理」、「日常生活における倫理」など身近な問題について考える姿勢を育てる。 「人間とは何か」について考えるきっかけを与える。
使用教科書・副教材等	清水書院『現代倫理改訂版』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント				
						態 度	関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	・ 青年期の課題 ・ 人間としての自覚	4 ・ 5	・ 青年期特有の課題を自覚させ、アイデンティティの確立について考えさせる。 ・ 自我とコンプレックス、欲求と適応など人間形成や行動に関わる基本的な事項を理解する。 ・ 古代・中世の人間観の歴史を理解するために、古代ギリシアの思想、ユダヤ教とキリスト教の思想、イスラム教の思想について学ぶ	・ 生徒が積極的に授業に参加するように工夫する ・ 教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる	第 1 学 期 中 間 考 査	○	○	○		○
	・ 人間としての自覚 ・ 現代に生きる人間の倫理	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・ 東洋の人間観の歴史を理解するために、古代インドの思想と仏教の思想、儒教思想・老荘思想などの中国の古典思想、近代以前の日本の思想について学ぶ ・ 近代の人間観を理解するために、ルネサンス・宗教改革・経験論・合理論・啓蒙思想・功利主義などの西洋の近代思想、実存主義・社会主義・その他の現代の思想について学ぶ	・ 生徒が積極的に授業に参加するように工夫する ・ 教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる	第 1 学 期 期 末 考 査	○	○	○		○
第 2 学 期	・ 国際社会に生きる日本人 ・ 家族・地域社会の倫理	9 ・ 10	・ 世界とつながる日本の思想を理解するために、西洋近代思想の受容・近代思想の展開・独自の思想などの近代の日本の思想について学ぶ ・ 人とのかわりについて考えさせるために、現代の社会、家族、高齢化などについて学ぶ ・ 社会とのかわりのなかで生きる意味を考えさせるために、民主主義、正義、公共性などについて学ぶ ・ 情報がつなぐものについて考えさせるために、情報化社会、情報倫理について学ぶ	・ 生徒が積極的に授業に参加するように工夫する ・ 教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる	第 2 学 期 中 間 考 査	○	○	○		○
	・ 情報社会における倫理					○	○	○		○

	・生命科学と倫理 ・地球環境と倫理	10 ・ 11 ・ 12	・命の意味について考えさせるために、生命工学と生命倫理、死生観などについて学ぶ ・環境について考えさせるために、自然観、科学技術と倫理、環境問題と環境倫理などについて学ぶ	・生徒が積極的に授業に参加するように工夫する ・教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる	第2学期期末考査	○	○		○
第3学期	・国際社会と自己	1 ・ 2 ・ 3	・地球社会の中の私たちについて考えさせるために、地球社会、国際化、異文化理解などについて学ぶ ・人類と福祉について考えさせるために、多文化共生、平和と人権などについて学ぶ	・生徒が積極的に授業に参加するように工夫する ・教科書に基づいて授業を行い、必要に応じて資料プリントなども用いる	学年末考査	○	○		○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 ・ノート ・提出プリント									
【1・2・3学期における評価方法】 ・定期考査 ・提出物 ・授業への参加態度									

教科名〔 地理・歴史 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
日本史 B	2 単位	3 学年 1 ～ 6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日本史を通史で学ぶことにより、日本の文化・伝統を理解し、わが国の歴史に対する見識を深める。
使用教科書・副教材等	清水書院 高校日本史 B

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1 .学習活動の特記事項 2 .副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント			
						関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	第 3 編 近世 1 章 織豊政権と桃山文化 2 章 幕藩体制の成立と鎖国	4 ・ 5	・ ヨーロッパ人の来航とキリスト教 ・ 信長の全国支配とその崩壊 ・ 幕藩体制の確立 ・ 鎖国政策の完成	・ 日本史写真パネル	第 1 学 期 中 間 考 査	○			○
	3 章 幕藩体制の展開と元禄文化 4 章 幕藩体制の動揺と化政文化 第 4 編 近代・現代 1 章 開国と明治維新	6 ・ 7	・ 三大改革と幕府財政の悪化 ・ 幕府と諸藩の改革 ・ 外国船の往来と幕府の動揺 ・ 鎖国はどのように終わったか ・ 倒幕運動の展開と大政奉還	・ 日本史写真パネル	第 1 学 期 期 末 考 査	○			○
第 2 学 期	2 章 立憲国家の成立と国際関係 3 章 近代産業の発展	8 ・ 9 ・ 10	・ ・ 明治政府の成立過程 ・ 地租改正と殖産興業政策 ・ 近隣国との関係と海外侵略 ・ 国会開設の動きと明治憲法の制定 ・ 議会政治の始まりと外交関係 ・ 条約改正運動 ・ 日清戦争と日本のアジア戦略 ・ 日露戦争と日本の大陸進出 ・ 近代産業の成立過程と社会問題の発生	・ 日本史写真パネル	第 2 学 期 中 間 考 査	○			○

第2学期	4章 第一次世界大戦と日本経済 5章 政党政治の発展 6章 軍国日本の形成	10 11 12	・ 大正政変と大正時代の日本 ・ ヨーロッパ列強と日本の近代化 ・ 第1次世界大戦と戦後の枠組み ・ 大戦景気の日本への影響 ・ 戦後不況と経済の混乱 ・ 原敬内閣から大正デモクラシーへ ・ 治安維持法と社会運動の高まり ・ 昭和初期の外交政策 ・ 世界恐慌と金融政策 ・ 満州事変と日本の孤立化 ・ 軍部・右翼の台頭 ・ 日本の中国侵略とファシズム ・ 第二次世界大戦と日本	・ 日本史写真パネル	第2学期期末考査	○	○		○
第3学期	7章 戦後日本の国家再編 8章 国際社会の動向と高度経済成長	1 2 3	・ 太平洋戦争の推移 ・ 日本の敗戦と戦後の世界体制 ・ 戦後の民主化政策と日本の復興 ・ 冷戦と日本の独立 ・ 自衛力増強と55年体制の成立 ・ 高度経済成長と国民生活の変化	・ 日本史写真パネル ・ 日本史ビデオ「アジア太平洋戦争」 学年末考査	学年末考査		○		○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業プリントの提出、長期休みには、教科書から全員の課題を課し、欠点者には特別な課題を課す 欠点者や特別支援教育該当者への特別講習									
【1・2・3学期における評価方法】 プリント提出、ノート提出、授業態度など平常点を3割、テストの点数を7割とする算出方法で、総合的に評価する。 個人の能力に応じた努力や学習意欲を考慮して、科目の認定をおこなう。									

教科名〔 地歴・公民 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
政治・経済	2単位	3年1～6組	＊

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日本と世界経済の大まかな仕組みを理解する。 現代の日本と世界が抱える様々な経済の問題について学ぶ。 日本と世界がかかえるさまざまな経済問題に対し、その対処策を考え、自分なりの意見を持てるようにする。 雇用に関わる基本的な法律知識を身につける。
使用教科書・副教材等	実教『新版・政治経済』 プリント教材・ビデオなど

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備考 1 学習活動の特記事項 2 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント				
						態 度	関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	① 現代の経済 資本主義のしくみ 資本主義と社会主義 価格決定のしくみについて 市場経済の機能と限界	4 ・ 5	資本主義経済の成立の歴史と政府の役割の変化を理解する。 社会主義経済の特徴と現状を理解する。 価格決定のしくみを学び、寡占などによる市場の限界を考える。	教科書およびプリント使用 必要に応じてビデオ教材使用	第 1 学 期 中 間 考 査	○	○			○
	景気変動と経済成長 財政の仕組みとはたらき 租税と国債	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	経済指標を知り、景気変動と経済成長の基本的なしくみを学ぶ。 税がはたす役割を理解する。 家計・企業・政府の関わりを考える。	教科書およびプリント使用 必要に応じてビデオ教材使用	第 1 学 期 期 末 考 査	○	○			○
第 2 学 期	金融市場 日本銀行と金融政策 ② 現代経済の諸課題 ・ 日本経済のしくみ ・ 日本経済と国際経済	9 ・ 10	金融市場の役割を理解する。 日本銀行と金融政策の具体的な内容を理解する。 ・ 日本経済の基本的な仕組み・特徴について ・ 日本経済の動向について学ぶ。 ・ 日本と国際経済のつながりについて学ぶ。 ・ 経済のグローバル化について考える。	教科書およびプリント使用 必要に応じてビデオ教材使用	第 2 学 期 中 間 考 査	○	○			○

	3 労働と法律 - 労働法規 - 労働契約と雇用 - 雇用に関わる基本的な知識について	11 12	- 労働三法、その他の労働法規について学ぶ。 - 労働契約・就業規則について学ぶ。 - 賃金・労働時間・休日について学ぶ。 - 解雇の要件について学ぶ。 - 社会保険・労働保険・税金について学ぶ。 - 母性保護・育児休暇・介護休暇について学ぶ。	教科書およびプリント使用 必要に応じてビデオ教材使用	第2学期期末考査	○	○		○
第3学期	- 労働問題と労働組合 - 雇用をめぐる諸問題	1 2	- 労働をめぐる諸問題について学ぶ。 - 労働運動・労働組合について学ぶ。 - 現在の日本の雇用情勢と、関連する諸問題について学ぶ。	教科書およびプリント使用 必要に応じてビデオ教材使用	学年末考査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 - ノート - 提出プリント - その他の課題									
【1・2・3学期における評価方法】 - 定期考査の得点 - 提出物の内容・提出状況 - 授業への参加態度、学習意欲									

教科名〔 数 学 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
数学 A	3 単位	3 年 1 ～ 6 組 文系	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	場合の数と確率の学習を実際の例を示して見て、具体的に把握する。 論理的な思考を養うために公式の扱い方を学ぶ。 平面図形の三角形と円の性質を実際に描いてみて、視覚から把握する。 図形の簡単な性質を理解する。 事柄の真偽を判断する方法を学ぶ。
使用教科書・副教材等	教科書：数研出版「改訂版 高校の数学 A」 副教材：数研出版「ポイントノート 数学 A 基本」

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備考 1 学習活動の特記事項 2 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント				
						態 度	関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	1 章 場合の数と確率 1 節 順列・組合せ 1 集合	4 ・ 5	・部分集合、共通部分、和集合、全体集合、補集合、空集合について学習する。	課題プリント 副教材	第 1 学 期 中 間 考 査	○				○
	2 集合の要素の個数		・いろいろの集合の個数について考える。					○	○	
	3 和の法則・積の法則		・場合の数の和の法則と積の法則について学習する。					○		○
	4 順列		・順列の基本的な考え方と公式による計算の練習を行う。			○			○	
	5 順列の利用		・順列の応用として重複順列や円順列の考え方や計算方法を学習する。					○	○	
	6 組合せ	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・組合せの基本的な考え方と公式による計算の練習を行う。	課題プリント 副教材	第 1 学 期 期 末 考 査	○			○	
	7 組合せの利用		・組合せの応用として道順などの考え方を学習する。						○	○
	8 二項定理		・二項定理の考え方や計算方法を学習する。。					○	○	
	2 節 確率									
	1 事象と確率		・試行、事象、確率の意味を学習する。			○				○
	2 確率の計算		・順列や組合せを用いた確率の計算の練習をする。					○	○	
	3 排反事象の確率		・排反事象の意味を理解し、それを用いた計算の練習をする。					○		○
	4 余事象と確率		・余事象を用いる場合を理解し、それを用いた計算の練習をする。					○		○

第2学期	5 独立な試行と確率	9 ・ 10	・独立試行の意味を理解し、それを用いた計算の練習をする。	課題プリント 副教材	第2学期 中間 考 査		○	○			
	6 期待値		・反復試行の公式の考え方を理解し、それを用いた計算の練習をする。				○		○		
	3章 平面図形										
	1 角の二等分線と線分の比		・三角形の内角の二等分線と辺との関係を調べる。				○		○		
	2 三角形の外心		・三角形の各辺の垂直二等分線が一点で交わることを理解する。						○		
	3 三角形の内心		・三角形の各内角の二等分線が一点で交わることを理解する。						○		
第2学期	4 三角形の重心	10 ・ 11 ・ 12	・三角形の各中線が一点で交わり、つりあいを三角形の図形から理解する。	課題プリント 副教材	第2学期 期 末 考 査			○	○		
	5 三角形の辺と角		・三角形の辺と角の大小関係を調べて理解する。				○		○		
	6 円周角の定理		・円周角の定理を理解し、またその逆も理解する。				○		○		
	7 円に内接する四角形		・四角形と円との関係を把握し、円に内接する四角形の性質を知る。					○			
	8 接線と弦のつくる角		・円の接線が弦との間につくる角と円周角との関係を調べる。				○		○		
	9 方べきの定理		・方べきの定理の内容を理解する。				○		○		
第3学期	10 2つの円	1 ・ 2 ・ 3	・2つの円の位置関係を図示して把握し、その関係を関係式で表す。	課題プリント 副教材	学 年 末 考 査			○	○		
	2章 論理と集合							○		○	
	1 命題と集合		・事柄が正しいか正しくないかを判断するときに必要な考え方や用語を学習する。						○		○
	2 必要条件と十分条件		・必要、十分という用語を正しく使用して、事柄の真偽を判断する。						○		○
	3 対偶と証明		・証明方法として、間接的に証明する方法を学習する。						○		○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業のノ・ト・授業に用いたプリント・課題プリント・副教材の問題集・長期休暇の宿題など。											
【1・2・3学期における評価方法】 考査・提出物の内容・授業を受ける態度などから総合的に評価する。											

教科名〔 数 学 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
数学 A	2 単位	3 年 1 ～ 2 組 理系	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	場合の数と確率の学習を実際の例を示して見て、具体的に把握する。 論理的な思考を養うために公式の扱い方を学ぶ。 平面図形の三角形と円の性質を実際に描いてみて、視覚から把握する。 図形の簡単な性質を理解する。 事柄の真偽を判断する方法を学ぶ。
使用教科書・副教材等	教科書：数研出版「改訂版 高校の数学 A」 副教材：数研出版「ポイントノート 数学 A 基本」

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備考 1 学習活動の特記事項 2 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント				
						態 度	関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	1 章 場合の数と確率 1 節 順列・組合せ 1 集合	4 ・ 5	・部分集合、共通部分、和集合、全体集合、補集合、空集合について学習する。	課題プリント 副教材	第 1 学 期 中 間 考 査	○				○
	2 集合の要素の個数		・いろいろの集合の個数について考える。					○	○	
	3 和の法則・積の法則		・場合の数の和の法則と積の法則について学習する。					○		○
	4 順列		・順列の基本的な考え方と公式による計算の練習を行う。			○			○	
	5 順列の利用		・順列の応用として重複順列や円順列の考え方や計算方法を学習する。					○	○	
	6 組合せ	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・組合せの基本的な考え方と公式による計算の練習を行う。	課題プリント 副教材	第 1 学 期 期 末 考 査	○			○	
	7 組合せの利用		・組合せの応用として道順などの考え方を学習する。						○	○
	8 二項定理		・二項定理の考え方や計算方法を学習する。。					○	○	
	2 節 確率									
	1 事象と確率		・試行、事象、確率の意味を学習する。			○				○
	2 確率の計算		・順列や組合せを用いた確率の計算の練習をする。					○	○	
	3 排反事象の確率		・排反事象の意味を理解し、それを用いた計算の練習をする。					○		○
	4 余事象と確率		・余事象を用いる場合を理解し、それを用いた計算の練習をする。					○		○

第2学期	5 独立な試行と確率	9 ・ 10	・独立試行の意味を理解し、それを用いた計算の練習をする。 ・反復試行の公式の考え方を理解し、それを用いた計算の練習をする。 ・期待値の計算の仕方を理解し、その練習を行う。	課題プリント 副教材	第2学期 中間 考 査		○	○	○	
	6 期待値					○	○	○		
	3章 平面図形									
	1 角の二等分線と線分の比					○	○	○		
	2 三角形の外心						○	○		
	3 三角形の内心		・三角形の各内角の二等分線が一点で交わることを理解する。			○	○			
	4 三角形の重心		・三角形の各中線が一点で交わり、つりあいを三角形の図形から理解する。			○	○			
	5 三角形の辺と角		・三角形の辺と角の大小関係を調べて理解する。		○	○				
		6 円周角の定理	10 ・ 11 ・ 12	・円周角の定理を理解し、またその逆も理解する。 ・四角形と円との関係を把握し、円に内接する四角形の性質を知る。 ・円の接線が弦との間につくる角と円周角との関係を調べる。 ・方べきの定理の内容を理解する。	課題プリント 副教材	第2学期 期 末 考 査	○		○	○
		7 円に内接する四角形					○	○	○	
8 接線と弦のつくる角				○				○		
9 方べきの定理				○			○			
10 2つの円							○	○		
第3学期	2章 論理と集合	1 ・ 2 ・ 3	・事柄が正しいか正しくないかを判断するときに必要な考え方や用語を学習する。 ・必要、十分という用語を正しく使用して、事柄の真偽を判断する。 ・証明方法として、間接的に証明する方法を学習する。	課題プリント 副教材	学 年 末 考 査		○		○	
	1 命題と集合					○		○		
	2 必要条件と十分条件					○		○		
	3 対偶と証明					○		○		
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業のノ・ト・授業に用いたプリント・課題プリント・副教材の問題集・長期休暇の宿題など。										
【1・2・3学期における評価方法】 考査・提出物の内容・授業を受ける態度などから総合的に評価する。										

教科名〔 数 学 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組 ・ コース	担 当 者 名
数学演習	4 単位	3 学年理系 選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学 ・ の基本的な内容の復習から、応用的な内容までを、問題演習を通じて学習する。 計算力と思考力の向上をめざす。 テーマ毎に広い視野で問題を取り組む姿勢を養う。
使用教科書・副教材等	数研出版 テーマ数学 完成ノート「方程式と不等式」、テーマ数学 完成ノート「2 次関数」 テーマ数学 完成ノート「図形と計量」

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1 .学習活動の特記事項 2 .副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント			
						関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	微分と積分	4 ・ 5	・多項式の和・差・積，展開の公式，因数分解，を中心に基本的な計算が確実にできるように練習する。また、式の書き方や“＝”の使い方などを正しく身につける。	テーマ数学 完成ノートを毎時間提出と個人の発表をさせる。	第 1 学期中間考査	○	○	○	○
	方程式と不等式					○	○		○
第 2 学 期	2 次関数	8 ・ 9 ・ 10	・関数の概念を理解させ、2 次関数の性質を十分習得させ、様々な問題に対応できるようにする。 ・グラフが書けるように何度も練習する。	テーマ数学 完成ノートを毎時間提出と個人の発表をさせる。	第 2 学期中間考査	○	○		○

	2 次関数 図形と計量 三角関数	10 ・ 11 ・ 12	・ グラフを使っているいろいろの問題が解けるようにする。 ・ 三角比、三角比の相互関係、三角比の拡張の基本的事項を理解させる。 ・ 三角関数のグラフが書けること。加法定理、三角関数の合成の基本的事項を理解させる。	テーマ数学 完成ノートを毎時間提出と個人の発表をさせる。 講義と演習プリントを中心。毎時間提出	第 2 学期期末考査	○	○	○	○
第 3 学期	図形と計量 生活にある数学	1 ・ 2 ・ 3	・ 平面図形、立体図形の復習をして、総合的に図形を理解させる。 ・ まとめとして、身近な生活の中にある題材を数学的に捉えて応用できる力を養う。	テーマ数学 完成ノートを毎時間提出と個人の発表をさせる。 講義と演習プリントを中心。毎時間提出	学年末考査	○	○	○	○
【 1 ・ 2 ・ 3 学期における課題・提出物等】 各学期とも、授業中の教材やプリントなどを提出させる。									
【 1 ・ 2 ・ 3 学期における評価方法】 小テスト・定期考査の成績・提出物の内容・授業態度・個人の発表などを総合的に評価する。									

教科名〔 理 科 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
化 学	3 単位	3 学年理系 選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	化学に対する総合的理解を深める。 計算問題に対応できる能力を身につける。 実験により科学的な物の見方を養う。
使用教科書・副教材等	第一学習社『高等学校改訂新化学 』『改訂版スクエア最新図説化学』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備考 1 学習活動の特記事項 2 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント				
						態 度	関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	物質のなりたち 1 物質とその構成要素 2 物質の構成粒子と物質質量	4 ・ 5	物質の構成成分の検出方法、その成分の最小の単位粒子・原子についての理解を深める。 物質を形作る化学結合の種類と、特徴を理解する。 原子・分子などの量の表し方を学び、計算に習熟する。	提出物、出欠、授業に取り組む態度等に留意する。 随時図説を使用し、視覚的な面から理解を深める。 必要に応じプリント教材を用いる。	第 1 学 期 中 間 考 査	○		○	○	○
	物質の変化 1 物質の変化とエネルギー 2 酸・塩基と塩	5 ・ 6 ・ 7	化学変化を反応式として表し、それに伴うエネルギーの出入りを理解する。 酸・塩基の性質が同じ尺度で表されること、中和反応での量的関係を学び理解する。	提出物、出欠、授業に取り組む態度等に留意する。 随時図説を使用し、視覚的な面から理解を深める。 必要に応じプリント教材を用いる。	第 1 学 期 期 末 考 査	○		○	○	○
第 2 学 期	3 酸化還元反応 無機物質 1 非金属元素の単体と化合物 2 金属元素の単体と化合物	8 ・ 9 ・ 10	酸化還元反応の本質を学び、電池や電気分解の理解へと進む。 金属以外の単体と主な化合物について、性質や反応を学習する。 典型元素の金属・主な遷移元素の金属について、単体や化合物の特性と反応を学習する。	提出物、出欠、授業に取り組む態度等に留意する。 随時図説を使用し、視覚的な面から理解を深める。 必要に応じプリント教材を用いる。	第 2 学 期 中 間 考 査	○		○	○	○

	有機化合物 1 有機化合物の特徴と分類 2 脂肪族化合物	10 ・ 11 ・ 12	有機化合物の特性を学び、さらにその化学式の決め方を学習する。 脂肪族化合物の特性や反応について、食酢やセッケンなど生活に関係深い物質を中心に学ぶ。	提出物，出欠，授業に取り組む態度等に留意する。 随時図説を使用し、視覚的な面から理解を深める。 必要に応じプリント教材を用いる。	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	3 芳香族化合物	1 ・ 2 ・ 3	芳香族化合物の特性や反応について、脂肪族化合物の比較をしながら学習する。	提出物，出欠，授業に取り組む態度等に留意する。 随時図説を使用し、視覚的な面から理解を深める。 必要に応じプリント教材を用いる。	学年末考査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業中に配布するプリント 実験のレポート 長期休業中の課題 など									
【1・2・3学期における評価方法】 考査評価 宿題 配布プリント等の提出物評価 出欠，授業に取り組む態度の評価									

教科名〔 理 科 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
生 物	3 単位	3 学年 文系・理系 選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生物や生命現象についての基本的概念・原理・法則を理解する。 実験・観察を行い、生物を含む自然に対する関心や探求心を高める。 実験を安全・性格に行う技能と、結果をまとめ考察する能力を習得する。 上記を通じ、身の回りの自然現象を生物学的に探求する態度・科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	大日本図書 生物 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1 学習活動の特記事項 2 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点の ポイント				
						態 度	関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	タンパク質と生物体の機能 1 生物体内の化学反応と酵素 2 物質とエネルギー代謝 3 タンパク質の機能	4 ・ 5	・生命活動の本質が化学反応(物質代謝とエネルギー代謝)であり、それを円滑に行うために酵素が重要な役割を果たしていることを理解する。 ・生物体に不可欠な有機物のうち、特にタンパク質が担う働きを理解する。	・実験観察 ・実験観察のスケッチおよびレポート内容。 ・随時プリント教材を使用し、要点整理・問題演習を行う。	第 1 学期 中間 考 査	○		○	○	○
	遺伝情報とその発現 1 遺伝子からタンパク質へ 2 形質発現の調節と形態形成 3 バイオテクノロジー	5 ・ 6 ・ 7	・遺伝子の本体がDNAという物質であること、その遺伝情報に基づいて形質が発現する仕組みを理解する。 ・発展めざましいバイオテクノロジーが生活のどのような場面に利用されているかを知り、その利点・問題点を考察する。	・実験観察 ・実験観察のスケッチおよびレポート内容。 ・随時プリント教材を使用し、要点整理・問題演習を行う。	第 1 学期 期末 考 査	○		○	○	○
第 2 学 期	生物の分類と進化 1 生物の分類 2 生物の系統 3 生物界の変遷	8 ・ 9 ・ 10	・生物を分類する方法と、系統に基づく分類の体系を学ぶことで、生物多様性を理解する。 ・地球の歴史とともに生命が歩んできた進化の道筋を理解する。	・実験観察 ・実験観察のスケッチおよびレポート内容。 ・随時プリント教材を使用し、要点整理・問題演習を行う。	第 2 学期 中間 考 査	○		○	○	○

	4 進化のしくみ 生物の集団 1 個体群の構造と維持 2 生物群集と生態系	10 ・ 11 ・ 12	・進化のしくみについてのさまざまな学説について学び、進化の過程における生物と環境の関係を考察する。 ・生態系の構成要素である生物の集団がどのような規則性で成り立っているか、環境とどのように関係しているのかを学び、身近な生物を生態学的視点で観察できるようにする。	・実験観察 ・実験観察のスケッチおよびレポート内容。 ・随時プリント教材を使用し、要点整理・問題演習を行う。	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	3 生態系とその保全 課題研究	1 ・ 2 ・ 3	・ヒトも生態系の一構成要素であることを理解し、さまざまな環境問題にどのように対処していくべきかを考察する。 ・選択したテーマについて、資料を収集・検索し、自分なりの考えをレポートとしてまとめる。	・実験観察 ・実験観察のスケッチおよびレポート内容。 ・随時プリント教材を使用し、要点整理・問題演習を行う。	学年末考査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業中に配布する学習プリント、実験実習のレポート、夏期・冬期休暇中の宿題等。									
【1・2・3学期における評価方法】 考査評価、課題プリントへの取り組み状況、ノートチェック、授業態度などを総合評価。									

教科名〔 理 科 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
地学	3 単位	3 学年 文系・理系 選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	地球や宇宙に関する様々な自然現象を科学的に理解する。
使用教科書・副教材等	高等学校・地学 第一学習社 [183 第一地 005] 手作りのプリント

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第 1 学 期	第 1 章 わたしたちの すむ地球[20] 1.生命の星 - 地球[3] 2.地球の内部[3] 3.火山と地震 (1)火山[4]	4 ・ 5	・太陽系についての概略を説明し、地球上に生命がなぜ生じたかについて考える。 ・地球の形と大きさについて理解する。 ・プレートテクトニクスの考え方を理解する ・火成岩について理解する ・火山の生じるしくみを理解する ・溶岩の性質と火山噴火の様式、火山の形とを関連付けて理解する ・日本と世界の火山帯について理解する	・主にプリントを中心に授業を進め、空欄や問いを入れて考えさせ書き込ませる。 ・プリント ・プリントの提出	第 1 学 期 中 間 考 査	○	○		○
	(2)地震[6] (3)地震波による地球の内部構造の推定[4]	6 ・ 7 ・ 8	・地震が生じる仕組みを考えさせ、震度やマグニチュードについて理解する ・地震波について理解する ・プレートの動きと地震の起き方を、実習の作業も入れながら考える ・地球の内部構造が地震波により推定される仕組みを理解する	・プリントによる作業 ・プリント ・プリントの提出	第 1 学 期 期 末 考 査	○	○	○	○
第 2 学 期	第 4 章 宇宙の姿[20] 1. 地球の自転と公転に伴う天体の動き (1)太陽と恒星の見かけの動き[6] (2)月について[1]	9 ・ 10	・地球の自転に伴う恒星の見かけの動きを考える。 ・地球の自転、公転に伴う太陽の見かけの動きを考える。 ・月の運動を考えさせ、日食や月食についても理解を深める。	・プリントに問いの形式で考えさせながら書き込ませる。	第 2 学 期 中 間 考 査	○	○	○	○

	(3)地球の自転と公転の証拠[3]		・地球の自転や公転の証拠を考える。	・プリントの提出		○		○	○
	(4)時刻について[2] (5)惑星の運動[3] 2. 恒星の性質と進化 (1) 恒星の明るさと距離[2] (2)恒星の誕生と進化[3]	10 ・ 11 ・ 12	・時刻をどのように決めているかを考える。 ・惑星の見かけの動きや、会合周期、公転周期について考えさせ、ケプラーの法則についても少し学ぶ。 ・恒星の明るさや絶対等級について学び、恒星までの距離の求め方についても簡単に学ぶ。 ・恒星の誕生と終末。ブラックホールについて学ぶ。	・別のプリントで演習形式で考えさせる。 ・プリントに問いの形式で書き込ませる。 ・プリントとビデオを見せて、感想文を書かせる。 ・プリント提出	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	地球環境の破壊について[4]	1 ・ 2 ・ 3	・オゾン層の破壊、地球の温暖化の問題、酸性雨の問題をテーマに選び、環境問題について考える。	プリント	学年末考査	○		○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 ・授業用のプリントを全部提出。 ・感想文や実習用のプリントを提出。 ・1.2.学期の終わりに、プリントの内容から課題を作り、それを各学期の初めに提出									
【1・2・3学期における評価方法】 ・プリント類や課題、基礎学力テストの点数および授業中の質問にたいする答え方等を平常点として3割、各学期の中間と期末考査の平均を7割として100点満点で評価する。									

教科名〔 保健体育 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
男子 体育	1単位	3学年1～6組男子	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	授業を通してスポーツに対する興味・関心・意欲を深めさせる。 自主的・自発的に学習する態度を育成する。・健康や体力についての理解を深める。 生涯を通じて、自分にあったスポーツを楽しむことができる基礎作りを行う。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1．学習活動の特記事項 2．副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント			
						関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	オリエンテーション	4 ・ 5	年間計画、目標、心構えを理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・役割分担・体ほぐしの運動などができるようになる。		第 1 学 期 中 間 考 査	○			○
	シャトルラン		新体力テストの20mシャトルランテストを行い、総回数から最大酸素摂取量を推定する。また過年次と比較し、生徒個人の体力を診断する。			○			
	バレーボール(オリエンテーション)		授業の進め方を理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・コート整備・班内での役割分担・グループ分け・班ノート記録・体ほぐしの運動等ができるようになる。					○	○
	バレーボール実技 基本練習		基本技術・応用技術の習得 ・パス ・フットワーク ・サービス・トス・スパイク・レシーブ・ブロック・簡易ゲーム			○		○	
第 1 学 期	ゲーム練習と審判	6 ・ 7 ・ 8	基本技能を身につけゲーム形式に試合ができるようにする。		第 1 学 期 期 末 考 査	○	○		
	ゲーム		ルールを理解する。 ゲームの攻防を楽しむ・技術と戦術を身につけそれらをゲームで発揮できるようになる。 ルールと審判法を理解し、フェアプレーで安全に留意したゲームをめざす。						○

第2学期	8月下旬から9月第3週あたりまで水泳授業となる バスケットボール(オリエンテーション) 基本練習バスケットボール実技	9・10	授業の進め方を理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・コート整備・班内での役割分担・グループ分け・班ノート記録・体ほぐしの運動等ができるようになる。 ・パス・パス・ドリブル・シュート・簡易ゲーム		第2学期中間考査	○			
	バスケットボール実技 ゲーム練習と審判 ゲーム	10・11・12	基本技術・応用技術の習得 基本技能を身につけゲーム形式に試合ができるようになる。 ルールを理解する。 ゲームの攻防を楽しむ・技術と戦術を身につけそれらをゲームで発揮できるようになる。 ルールと審判法を理解し、フェアプレーで安全に留意したゲームをめざす。 ゲームを楽しむなかで技術と戦術をみがきより精度を高める。		第2学期期末考査			○	○
第3学期	フットサル・バスケット・ソフトバレー実技	1・2・3	球技の実践を通してスポーツに対する興味・関心・意欲を深める。		学年末考査	○		○	

【1・2・3学期における課題・提出物等】

各学期末に班ノートを提出させる。

【1・2・3学期における評価方法】

- ・基本的な技能がどの程度修得されているか。
- ・授業の中でゲームスキル、及び積極性・協力心・態度などで評価する。
- ・基本技能、応用技能ができているか・ゲームコントロールができているか・みんなと協力しているか・ルールを正しく理解しているか。
- ・自分の技能に応じてフォーメーションを工夫できているか。

教科名〔 保健体育 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
男子 体育 水泳	2単位	3学年1～6組	藤永・山下

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	水泳の特性を理解し、3泳法を泳ぎきる技能を身につける。 3泳法をマスターし、50メートルの個人メドレーを泳ぎ切る。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1．学習活動の特記事項 2．副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期		4・5			第1学期中間考査				
	オリエンテーション 泳法チェック 3泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）をチェックし悪いところを見つけだす 各泳法の練習をさせ生徒の技能を把握する コンピネーション 3泳法を泳ぐ1	6・7・8	授業の進め方を説明し、見学について・更衣について・補習等について理解する。 泳法を途中で変える練習をする。 スタート練習 スピードを高める。 持久力を高める。		第1学期期末考査	○		○ ○ ○	○

第2学期	3泳法を泳ぐ2 タイム泳法テスト	9 ・ 10	よりスピードを高める。 より持久力を高める。 50メートルを泳ぐタイム及び3泳法のフォームを点検する(各泳法のフォームが正確で伸びのある泳ぎをしているか)、 タッチ後(ターン)スムーズに方向をかえ、壁がけれているか。		第2学期中間考査			○ ○	
		10 ・ 11 ・ 12			第2学期期末考査				
第3学期		1 ・ 2 ・ 3			学年末考査				
【1・2・3学期における課題・提出物等】									
【1・2・3学期における評価方法】 ・3泳法がきちんと泳げているかどうか・積極的に練習に打ち込み技能の進展があるか・フォームが正確で伸びのある泳ぎをしているか・スピード及び持久力を高めることができたか。									

教科名〔 保健体育 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
女子 体育	1単位	3学年 1 ～ 6組男子	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	授業を通してスポーツに対する興味・関心・意欲を深めさせる。 自主的・自発的に学習する態度を育成する。・健康や体力についての理解を深める。 生涯を通じて、自分にあったスポーツを楽しむことができる基礎作りを行う。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1．学習活動の特記事項 2．副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント			
						関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	オリエンテーション バスケットボール(オリエンテーション) 基本練習バスケットボール実技 バスケットボール実技	4 ・ 5	年間計画、目標、心構えを理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・役割分担・体ほぐしの運動などができるようになる。 授業の進め方を理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・コート整備・班内での役割分担・グループ分け・班ノート記録・体ほぐしの運動等ができるようになる。 ・パス・パス・ドリブル・シュート・簡易ゲーム 基本技術・応用技術の習得		第 1 学 期 中 間 考 査	○ ○ ○		○	○
	ゲーム練習と審判 ゲーム	6 ・ 7 ・ 8	基本技能を身につけゲーム形式に試合ができるようになる。 ルールを理解する。 ゲームの攻防を楽しむ・技術と戦術を身につけそれらをゲームで発揮できるようになる。 ルールと審判法を理解し、フェアプレーで安全に留意したゲームをめざす。 ゲームを楽しむなかで技術と戦術をみがきより精度を高める。		第 1 学 期 期 末 考 査	○	○		○

第2学期	8月下旬から9月第3週あたりまで水泳授業となる フットサル(オリエンテーション) フットサル実技 基本練習	9・10	授業の進め方を理解し、生徒自身が自主的に道具の出し入れ・コート整備・班内での役割分担・グループ分け・班ノート記録・体ほぐしの運動等ができるようになる。 基本技術・応用技術の習得 ・パス ・フットワーク ・シュート、ヘディング、トラップ、簡易ゲーム		第2学期中間考査	○				
	ゲーム練習と審判 ゲーム	10・11・12	基本技能を身につけゲーム形式に試合ができるようにする。 ルールを理解する。 ゲームの攻防を楽しむ・技術と戦術を身につけそれらをゲームで発揮できるようになる。 ルールと審判法を理解し、フェアプレーで安全に留意したゲームをめざす。		第2学期期末考査			○	○	○
第3学期	フットサル・バスケット実技	1・2・3	球技の実践を通してスポーツに対する興味・関心・意欲を深める。		学年末考査	○		○		

【1・2・3学期における課題・提出物等】
各学期末に班ノートを提出させる。

【1・2・3学期における評価方法】

- ・基本的な技能がどの程度修得されているか。
- ・授業の中でのゲームスキル、及び積極性・協力心・態度などで評価する。
- ・基本技能、応用技能ができているか・ゲームコントロールができているか・みんなと協力しているか・ルールを正しく理解しているか。
- ・自分の技能に応じてフォーメーションを工夫できているか。

教科名〔 保健体育 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
女子 体育 水泳	2単位	3学年1～6組	藤永・久内

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	水泳の特性を理解し、3泳法を泳ぎきる技能を身につける。 3泳法をマスターし、50メートルの個人メドレーを泳ぎ切る。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1．学習活動の特記事項 2．副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期		4・5			第1学期中間考査				
	オリエンテーション 泳法チェック 3泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ）をチェックし悪いところを見つけだす 各泳法の練習をさせ生徒の技能を把握する コンビネーション 3泳法を泳ぐ1	6・7・8	授業の進め方を説明し、見学について・更衣について・補習等について理解する。 泳法を途中で変える練習をする。 スタート練習 スピードを高める。 持久力を高める。		第1学期期末考査	○		○ ○ ○	○

第2学期	3泳法を泳ぐ2 タイム泳法テスト	9 ・ 10	よりスピードを高める。 より持久力を高める。 50メートルを泳ぐタイム及び3泳法のフォームを点検する(各泳法のフォームが正確で伸びのある泳ぎをしているか)。 タッチ後(ターン)スムーズに方向をかえ、壁がけているか。		第2学期中間考査			○ ○	
		10 ・ 11 ・ 12			第2学期期末考査				
第3学期		1 ・ 2 ・ 3			学年末考査				
【1・2・3学期における課題・提出物等】									
【1・2・3学期における評価方法】 ・3泳法がきちんと泳げているかどうか・積極的に練習に打ち込み技能の進展があるか・フォームが正確で伸びのある泳ぎをしているか・スピード及び持久力を高めることができたか。									

教科名〔 保健体育 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
女子 体育 ダンス	1単位	3学年1～6組女子	久内

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代的なリズムの音楽に合わせて基本のステップができる グループでオリジナルな作品づくりができる 発表会を企画・運営できる
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1 .学習活動の特記事項 2 .副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント			
						関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	オリエンテーション	4 ・ 5	オリエンテーション 授業の進め方について理解する。 ダンスの特性について理解する。 体の可動範囲を広げる。		第 1 学 期 中 間 考 査	○			○
	ウォーミングアップ アイソレーション 基本のステップを練習する						○	○	○
	基本のステップを組み合わせて、一連の流れが踊れるようになる（テスト）		基本のステップを覚え、正確にできるようになる。			○	○	○	○
第 2 学 期	グループで発表する（テスト）	6 ・ 7 ・ 8	ミニ発表会をする。 鑑賞の態度を養う。		第 1 学 期 期 末 考 査	○	○	○	
	水泳（シラバス水泳参照）		水泳（シラバス水泳参照）						
	水泳（シラバス参照）		水泳（シラバス水泳参照）						
第 2 学 期	オリジナルな作品づくりをする	9 ・ 10	グループをつくり（8人くらいが基本）役割分担する。 作品づくりについて理解する。 テーマの設定 モチーフの設定 フレーズづくり 空間・構成 曲の選定 衣装 照明 など		第 2 学 期 中 間 考 査	○	○	○	○

	プレ発表をする (テスト)	10 ・ 11 ・ 12	プレ発表会をする。 衣装をつけて発表する。 (舞台で発表するグループの選考をする)		第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	舞台での発表会に向けての取り組みをする 自分達で発表会を企画・運営できるようにする	1 ・ 2 ・ 3	出場するグループは照明の効果的な使い方を理解する。 発表会に向けて、それぞれの役割を理解し、実行する。		学年末考査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 ○各学期ともグループノートを提出させる。									
【1・2・3学期における評価方法】 ○1学期は個人でひとまとまりの動きが踊れるかテストする(ミニ発表会) ○2学期はオリジナルな作品が発表できるかテストする(プレ発表会) ○3学期は全体の発表会を協力して企画・運営できるかどうか。」									

教科名〔 芸術 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
音楽	2 単位	3 年音楽選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	器楽演奏・歌唱・鑑賞などを通して、音楽をより身近なものにする。 音楽によって生活を明るく豊かなものにする心を育てる。 音楽の歴史をふまえ、現在の音楽について考える力を身につける。 アンサンブルを通じて、人と協力し生きてゆく力を身につける。
使用教科書・副教材等	教育芸術社『Joy of Music』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備考 1 学習活動の特記事項 2 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点の ポイント			
						関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
第 1 学 期	歌唱	4 ・ 5	・ 1・2年次の既習曲を用いて、歌うことの楽しさを感じるとともに、新しい仲間と音楽を通してクラス作りをする。		第 1 学 期 中 間 考 査	○	○		
	器楽アンサンブル（リコーダー）		・ ソプラノ・アルトを用いたリコーダー 4 重奏において、ハーモニーの美しさを感じるとともに、合奏の基礎をつくる。			○	○	○	
	合唱	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・ 声によるハーモニーづくりの基礎を身につける。		第 1 学 期 期 末 考 査	○	○	○	
	器楽アンサンブル（リコーダー）		・ グループでリコーダーアンサンブルに取り組み、曲の構成や曲想にも目を向け、表現の工夫を目指す。			○	○	○	
	鑑賞		・ 楽曲の種類や演奏形態についての理解を深め、それぞれの特徴や魅力を感じる。			○			○

第2学期	合唱	9 ・ 10	・2部合唱の楽しさ、声によるハーモニーの 美しさを味わう。		第2学期 中間 考 査	○		○	
	器楽アンサンブル（ギター）		・旋律とコードによるアンサンブルにおい て、ギターアンサンブルの楽しさを味わう。			○	○	○	
第2学期	合奏	10 ・ 11 ・ 12	・様々な楽器を用いて、クラス全員による合 奏に取り組み、協力する姿勢を身につける。 ・合奏の楽しさを味わう。		第2学期 期 末 考 査	○	○	○	
	鑑賞		・1学期の内容に加え、近代・現代の音楽の 理解を深める。 ・ポピュラー音楽の理解を深める。			○			○ ○
第3学期	グループ研究・発表	1 ・ 2 ・ 3	・グループを編成し、歌唱・器楽のどちらか において研究・発表を行う。聴く姿勢にも注 意を向ける。		学 年 末 考 査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 演習プリント・その他プリント課題等 学期ごとにファイル提出									
【1・2・3学期における評価方法】 実技試験（授業で取り扱った曲より抜粋） 提出課題、毎時間の授業に取り組む姿勢、出席状況などを総合的に評価する。									

教科名〔 芸術 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
美術	2 単位	3 年 美術選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	美術、美術の学習を踏まえて、表現と鑑賞の能力を一層高める。 講義・実習を通して個性豊かな美術の能力を高める。 美術を愛好する心情と、それを生活に取り入れる態度を育てる。 美術を体験することによって感性を豊かにし、人間性を育てる。
使用教科書・副教材等	光村図書『美術3』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点の ポイント				
						態 度	関 心・ 意 欲	断 考・ 判 断	思 考・ 表 現	技 能・ 理 解
第 1 学 期	オリエンテーション	4	○ 1 年間の授業の計画、心構えを説明する	プリント	第 1 学期中間考査	○				
	スケッチ、デッサン 「手の表情」	4	○ 手で喜怒哀楽のポーズを作る。 ○ 手のデッサンを通して、人物表現の楽しさを感じ取る。			○	○	○	○	○
	塑像制作 「手の表情」 ブロンズ粘土	4 5	○ 手の実在感や躍動感を塑像という立体造形の表現として表す。 ○ 塑像表現における素材と道具に関する知識を広め、計画的に制作できるようにする。			○	○	○	○	○
	油彩画制作 「手」をテーマに 10号サイズ	5 6 7	○ 手のデッサン、立体表現の集大成として、油彩画の制作をする。 ○ 油彩画の特質を生かした、さまざまな技法を試す。		第 2 学期期末	○	○	○	○	○
第 2 学 期	混合技法 「ミクストメディア」 模造紙大	8 9	○ コラージュ・モンタージュ・フロタージュ・デカルコマニー等 ○ 色々な表現技法を用いて、不思議で意外な世界を表現する。 ○ 大画面に描くことによって迫力のある作品を作る。		第 2 学期中間考査	○	○	○	○	○
	砂絵制作 「抽象画」 B4 サイズ	10 11 12	○ 砂という素材の質感を触れることで作品を制作する。 ○ 抽象画の概念を理解し、自己のイメージを抽象的に表現することを学ぶ。	プリント	第 2 学期期末考査	○	○	○	○	○
第 3 学 期	サンドブラスト 「パブリック制作」	1 2	○ サンドブラスト技法の体験。 ○ 工芸的なデザインの学習		学 年 末 考 査	○	○	○	○	○

【１・２・３学期における課題・提出物等】 各作品、演習プリント等

【１・２・３学期における評価方法】 各作品、演習プリント、平常点等を、総合的に判断する。

教科名〔 芸術 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
書道	2 単位	3 年 書道選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てる。 日本や中国の書の文化や伝統についての理解を深め、尊重する態度を高める。 感性をさらに磨き、個性豊かな書の表現力と鑑賞力を高める。
使用教科書・副教材等	光村『書道 』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント				
						関心・意欲・態度	の工夫	芸術的な感受や表現	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
第 1 学 期	授業内容アンケート 隷書の学習 ・ 隷書の基本用筆と特徴 ・ 臨乙瑛碑 3 種類 ・ 姓名を隷書風を書く 姓名五書体検字プリント	4 ・ 5	・ 授業開始に際し関心・意欲・態度を知る。 ・ 隷書の書道史上の意義を理解する。 ・ 基本用筆法と特徴を理解し、表現する。 ・ 臨書により隷書の結構法に慣れる。 ・ 書体辞典の使い方を理解し正確に検字する。 ・ 今後の手引きになるので、ていねいに筆字をとり資料をつくることで各書体の特徴理解を深める。 ・ 姓名を書くことにより、各書体の用筆法を整理し表現力を高める。	アンケート 書体辞典 プリント	第 1 学 期 中 間 考 査	○				
	姓名を六書体で書く (半紙四字サイズ) 姓名を六書体で書く (芳名録・細字) 表札草稿 表札を作る。 ・ 刻法 ・ 焼板 彩色 文字染め創作 T シャツ ・ 草稿・型紙彫り・染	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・ 書体の特徴を理解し統一した表現が出来るように意識して書く。 ・ 細字でも書体の特徴を明確に表現できる力量をつける。 ・ 練習量のチェックをし自分の技量との葛藤を大切にする。 ・ 表札に使う書体を絞り込む。 ・ 効果的に立体化する刻し方を選び手順を追って計画的に完成させる。 ・ 主体的に独自の工夫を楽しむ。 ・ 完成までの手順の理解をきちんと確認する。 ・ 表現効果を考え、手を抜くことなく、段階を追って完成までの工程を成し遂げる	表札展示 創作 T シャツ 展示	第 1 学 期 期 末 考 査	○	○	○	○	○

第2学期	・創作Tシャツ製作者カードを書く ＜展示＞ 第33回書道コンクール出品作品を書く。 ・各自で出品法帖を決め練成する。 新聞の折り込みチラシなどでエコ手漉き葉書を作ろう。 葉書作品を書く。	9・10	・製作意図がわかるようにカードを書いて完成Tシャツを展示する ・3年間の集大成であるので、各自出品法帖を決め書き込み作品の完成度を高める。 ・作品の練度をより高め、達成感を得る。 ・作業手順を理解する。 ・興味を持って意欲的に取り組む。 ・手漉きの風合いを生かして書作する。	Tシャツ展示	第2学期中間考査	○	○	○	○
	文字を使わず点と線でイメージを表現しよう。 「エネルギー・激・強」 「デリケート・静・弱」 大字一字作品 ・淡墨 ・濃墨 批評会 細字・年賀状 和紙20枚を染める。（技法4種と墨流しを自由に組み合わせる）	10・11・12	・文字の意味に頼らない純粹表現ができるよう多様な線質、点の筆触にこだわって表現活動を試みる。 ・体全体が筆と一体化し、スケールの大きな筆の動きができるよう思い切って書く。 ・気持ちにかなった1字を選び、これまでに身につけた総合的な表現力を発揮して書く。 ・次の製作のステップになるよう、プラス面マイナス面の両視点から批評し合うことで、仲間を評価し励ます力をつける。 ・実用的で芸術性をプラスした年賀状を工夫する。 ・1,2年で実践した技法をステップアップさせ卒業制作用の紙を染めておく。	佳作品は第59回高校展に出品	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	第59回大阪府高校書道展鑑賞レポート 漢字仮名混じり文創作『卒業記念作品』 染紙20枚に作品完成 表具・パネル貼り 実用書式 慶弔の上書 姓名六書体実技テスト	1・2・3	・興味を持って鑑賞し視野を広げる。卒業後の作品制作や鑑賞への意欲を喚起する。 ・卒業制作にふさわしい完成度の作品を総合的に工夫する。 ・協力して、ペアでパネル製作の作業をする。 ・慶弔の慣習を理解し、実用的な筆写力を高める。 ・姓名六書体を完全に覚え、細字自運で書くことで3年間の書道の学習を締めくくる。	全卒業作品展示	学年末考査	○	○	○	○

【1・2・3学期における課題・提出物等】

作品は基本的に毎時提出。合格制。

練習作品とプリントもすべてファイルにとじ、各考査前に提出。

2学期に書道コンクール出品。鑑賞レポート。

【1・2・3学期における評価方法】

毎時の提出作品。各考査前に提出のファイル。プリント記入状況。授業時の取り組み状況の観察。自己評価表。感想文。等これらを総合的に評価する。

教科名〔 英語 〕

科 目 名	単 位 数	学年・組・コース	担 当 者 名
英語	3単位	3年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	言葉と人間との関係、言葉と社会との関係など広く言葉への関心を高め、豊かな言語観を育てる。 英語の基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指す。
使用教科書・副教材等	All Aboard II 東京書籍、 Watching News 1 浜島書店

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1．学習活動の特記事項 2．副教材の使用など	考査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	[14] Lesson 1 2 The Power of Music (7) Reading 2 The Missing Piece (7)	4・5	第二次世界大戦下のヨーロッパで、前線の兵士たちはラジオから流れる「リリー・マルレーン」という曲に耳を傾けました。戦場という極限状態に置かれた彼らは何を思い、何を望んだのでしょうか。 主人公“it”は失ったかけらを探して旅に出ることにしました。旅の途中ではさまざまな出会いがありそしてついに見つかったぴったりのかけら！さあ、これで幸せになれるはずが、、、主人公の気持ちの変化を追いつながりじっくり味わって読んでみましょう。	仮定法過去 接続詞の用法 分詞構文	第1学期中間考査	○		○	○
	[17] Lesson 1 Fuji the Dolphin Can Swim Again (5) Lesson 2 The “Dream Teachers” Are Coming (6) Lesson 3 Be Fashionable. Be Eco-friendly. (6)	6・7・8	イルカが高くジャンプする姿を見たことがありますか。沖縄美ら海水族館には、人工の尾びれを着けてジャンプする「フジ」というイルカがいます。 あなたは将来の夢を持っていますか。「夢先生」は、子供たちに夢を持つことの大切さと、それを実現させるためのヒントを教えてください。 最近、おしゃれなデザインのエコグッズを良く見かけます。環境にやさしいだけでなく、気軽にファッションの一部として取り入れられるところが人気のようです。	過去分詞の形容詞用法 stop + ~ing 不定詞の用法 接続詞 if の用法 as well as 動名詞の用法 不定詞の副詞的用法 受動態 It is ...to ~の構文	第1学期期末考査	○		○	○

第2学期	[17] Lesson 4 Thinking about Life (6)	9 ・ 1 0	「命の大切さを感じました」 - 短編アニメ「象の背中」を見た人の感想です。死や別れを描いた物語は、私たちが普段の生活では気づかないことをあらためて教えてくれます。	cannot help ~ing の構文 現在完了形	第2学期中間考査	○		○	○
	Lesson 5 YUI (6)		今人気のシンガーソングライター、YUIさんの歌を聞いた人は多いはずです。YUIさんは、人をひきつける歌声に加えて、自らの努力と行動力で夢をかなえました。	関係代名詞の省略 make +O+ ~の構文		○		○	○
	Lesson 6 The World's Biggest Fish Market (5)		あなたは魚が好きですか。寿司や刺身などの日本食ブームにより、東京の築地市場はいまや世界一有名な魚市場と言っても過言ではありません。	不定詞の形容詞用法 在分詞の形容詞用法 受動態 as much as not only...but also 助動詞 should		○		○	○
第2学期	[20] Lesson 7 Wake up with a New Alarm Clock! (6)	1 0 ・ 1 1 ・ 1 2	目覚めるのが少し楽しみになるユニークな目覚まし時計があります。「よく眠れず、朝起きられない」と言う人は、自分の睡眠について一度考えてみませんか。	関係代名詞 which 動名詞の用法	第2学期期末考査	○		○	○
	Lesson 8 Working for World Peace (7)		戦後生まれの人たちが原爆の記憶を後世に伝える努力をしています。原爆映画を撮影した日系米国人の監督や、平和活動が続ける高校生たちの思いとは何でしょう。	関係代名詞 who, that remind + O + to + ~		○		○	○
	Lesson 9 Traditional Houses of the People of Beijing (7)		北京には現代的な建物が増えていますが、古い町並みを保護しようと言う動きも活発になっています。北京には、現代と歴史を物語る古都の風景が共存しているのです。	be full of 関係代名詞 that one after another		○		○	○
第3学期	[13] Lesson 10 Kawai Yuki, an 18-year-old Setter (4)	1 ・ 2 ・ 3	バレーボールの河合由貴選手は、高校生の時にワールドカップの全日本代表に選ばれました。セッターと言う重要なポジションに立つ河合選手の目標とは何でしょう。	会話表現について get used to ... used to ~	学年末考査	○		○	○
	Lesson 11 Living in Space (4)		2008年、宇宙飛行士の若田光一さんが国際宇宙ステーションに滞在します。日本人初の長期滞在中、日本実験棟「きぼう」の組み立て作業を行ないます。	How about ~ing の構文 What is it like ~ing?		○		○	○
	Lesson 12 The World Heritage Iwami Silver Mine (5)		かつて日本では高品質の銀が世界に流通しました。しかし、石見銀山が世界遺産に登録された理由はそれだけではないようです。	as ... as possible 不定詞の副詞用法 now that...の表現		○		○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 本文についての解説を書き加えたノート。適宜配布するプリント（単語、熟語のまとめ）。									
【1・2・3学期における評価方法】 定期考査。 課題プリント、ノートの提出。 授業への取り組む姿勢など総合的に評価。									

教科名〔 英語 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
ライティング	2単位	3 年 1 ～ 6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	2 年生で学んだ英文法の知識を復習する。 基本例文を暗唱させ、知識の定着をはかる。 自分のことを簡単な英語で表現できる力をつける。
使用教科書・副教材等	POWER ON ENGLISH WRITING (TOKYO SHOSEKI) プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1 学習活動の特記事項 2 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント				
						態 度	関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	Pre - Lesson1	4 ・ 5	1. 「主語」(S) を決める	各課題文の 試訳・暗唱	第 1 学 期 中 間 考 査	○		○	○	○
	Pre - Lesson2		2. 「動詞」と後に続くもの(5 文型)							
	Pre - Lesson3		3. 文のふくらませ方	暗唱文の ノート写し						
	Pre - Lesson4		4. 「代名詞」「冠詞」に注目							
	Pre - Lesson5		5. 数えられる「名詞」と数えられない「名詞」	過去・現在・ 未来の確認						
	Lesson1		6. 「時制」(1) 「現在形」を用いた表現							
	Lesson2		7. 「時制」(2) 「過去形」を用いた表現	5 文型						
	Lesson3	6 ・ 7 ・ 8	8. 「時制」(3) 「未来形」「進行形」を用いた表現	各課題文の 試訳・暗唱	第 1 学 期 期 末 考 査	○		○	○	○
	Lesson4		9. 「時制」(4) 「完了形」を用いた表現	暗唱文の ノート写し						
	Lesson5		10. 「助動詞」を用いた表現							
	Lesson6		11. 「動名詞」を用いた表現	動詞の過去 分詞の復習						
	Lesson7		12. 「不定詞」を用いた表現(1)							
	Lesson8		13. 「不定詞」を用いた表現(2)	助動詞の習得						
	Lesson9		14. 「分詞」を用いた表現	～ ing の復習						
第 2 学 期	Lesson10	9 ・ 10	15. 「関係代名詞」を用いた表現	各課題文の 試訳・暗唱	第 2 学 期 中 間 考 査	○		○	○	○
	Lesson11		16. 「関係副詞」を用いた表現							
	Lesson12		17. 「接続詞」を用いた表現	暗唱文の ノート写し						
	Lesson13		18. 「受け身」の表現							
	Lesson14		19. 「知覚動詞」「使役動詞」の表現	関係詞の理解 動詞の現在形、 過去分詞の理 解						
	Lesson15		20. 「比較」の表し方(1)							
	Lesson16		21. 「比較」の表し方(2)	-er -est の復習						

	Lesson17 Lesson18 Lesson19 Lesson20 Lesson21 Lesson22 Lesson23	10 ・ 11 ・ 12	22.「仮定」を含む表現 23.「否定」を含む表現 24.「句」を用いた表現 25.「話法」「節」を用いた表現 26.「感謝」「お礼」「喜び」 27.「同情」「励まし」 28.「謝罪」「言い訳」	各課題文の 試訳・暗唱 暗唱文の ノート写し 動詞の時制の 確認	第2学期 期末考 査	○	○	○	○
第3学期	Lesson24 Lesson25 Lesson26 Lesson27 Lesson28 Lesson29 Lesson30	1 ・ 2 ・ 3	29.「承諾」「希望」「期待」 30.「断り」「辞退」 31.「助言」 32.「問い合わせ」「依頼」 33.「予定」「計画」「意図」 34.「許可」「禁止」 35.「誘い」「提案」	各課題文の 試訳・暗唱 暗唱文の ノート写し 具体的な場面に即して表現する	学年 末考 査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 ノート、暗唱テスト（定期考査の前に実施する）、確認テスト、各種課題									
【1・2・3学期における評価方法】 定期考査、小テスト、ノート等の提出、授業に取り組む姿勢などを総合的に評価する。 出席、欠席なども考慮する。									

教科名〔 英語 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
英語演習	2 単位	3 年 1 ～ 6 組 選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	長文、会話文、文法、リスニングの演習を通じて、英語の基礎力と応用を養う Native との Team Teaching により、Reading, Speaking の基礎力をつける
使用教科書・副教材等	啓隆社『OASIS 2』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備考 1 学習活動の特記事項 2 副教材の使用など	考 査 範 囲	評価の観点のポイント			
						態 度	関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現
第 1 学 期	Lesson 1	4 ・ 5	・ スピーチの原稿を読む。	・ 冠詞、名詞 代名詞	第 1 学 期 中 間 考 査	○	○	○	○
	Lesson 2		・ アメリカからの留学生との会話文を読む。	・ Be 動詞 ・ 一般動詞					
	Lesson 3		・ 折れ線グラフの説明文を読む。	・ 一般動詞					
	Lesson 4		・ 猫とねずみの話を読む。						
	Lesson 5	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・ ブラジルからの留学生と日本の高校生との会話文を読む。	・ 時制	第 1 学 期 期 末 考 査	○	○	○	○
	Lesson 6		・ お札についての会話文を読む。	・ 時制					
	Lesson 7		・ 地図と道順についての長文を読む。	・ 時制					
	Lesson 8		・ シンガポール旅行についての長文を読む。	・ 疑問詞					
第 2 学 期	Lesson 9	9 ・ 10	・ 世界の「扉」に関連して、異文化を考える。	・ 助動詞	第 2 学 期 中 間 考 査	○	○	○	○
	Lesson 10		・ スペインからの留学生との、誕生日についての会話文を読む。	・ 助動詞					
	Lesson 11		・ 「職場体験」についての会話文を読む。	・ 時制					
	Lesson 12		・ 1901 年に書かれた 20 世紀を予想した文を読み、結果と比べる。	・ 態					

	Lesson 13 Lesson14 Lesson 15 Lesson 16	10 ・ 11 ・ 12	・ 携帯電話について、留学生との会話文を読む。 ・ 学校について、留学生との会話文を読む。 ・ ダイヤモンドについての長文を読む。 ・ 「世界遺産」についての会話文を読み、その保存について考える。	・ 不定詞 ・ 不定詞 ・ 分詞 ・ 動名詞と不定詞	第 2 学 期 期 末 考 査	○	○	○	○
第 3 学 期	Lesson 17 Lesson 18 Lesson 19	1 ・ 2 ・ 3	・ 「国際宇宙ステーション」についての会話文を読み、国際協力について考える。 ・ 北アメリカのバッファローについての長文を読む。 ・ 退職を迎えた男性の話を読む。	・ 関係代名詞 ・ 形容詞と副詞 ・ 比較	学 年 末 考 査	○	○	○	○
【 1 ・ 2 ・ 3 学期における課題・提出物等】 本文について解説を書きこみ、問題の答えあわせができているテキスト。 適宜配布するプリント。									
【 1 ・ 2 ・ 3 学期における評価方法】 定期考査、リスニング、リーディング、スピーキング、課題プリントなどの提出。 授業への取り組みなどを総合的に評価する。									

教科名〔 情報 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
情報 A	2 単位	第 3 学年 1 ～ 6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	問題解決にコンピュータを利用する際の必要な考え方を理解させる。 情報技術の面から、情報社会を考え、情報社会に参画する態度を身につける。
使用教科書・副教材等	第一学習社 情報 A / 0 6 8 Office 2 0 0 3

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1 .学習活動の特記事項 2 .副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント				
						態度	関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	オリエンテーション コンピュータ実習	4 ・ 5	・ワードを使用して、ワープロの実習を行う。 ・第3章 Word2003 1～19 ・テキストを読解する能力を養いながら、各自理解し、実習を行っていく。 ・実習を行う上で体裁の良い文章を作成していく。 ・基本的な操作を学ばせた後に応用として、カレンダーや個人の時間割表などの課題を与える。 ・実習が中心であるので、定期考查は行わない。	・ワープロの実習を中心に職業訓練もふまえて練習していく。 ・Office2003 ・課題、出席、授業への参加度、実技試験で評価を行う。		○	○	○	○	
	第2章 情報の収集・発信と情報機器の活用 1節 インターネット	6 ・ 7 ・ 8	・コンピュータネットワークのしくみについて理解する。 ・電子メールの Subject:や本文の適切な形，電子メールが配送されるしくみについて学習する。 ・電子メールの送受信など，具体的な操作方法を学習する	・定期考查、プリント、ノートなどの提出物により評価を行う。	第1学期期末考查	○	○		○	
	2節 ウェブページのしくみ		・WWW上の検索サービスで，たどるディレクトリや入力するキーワードの適切なものを選ぶ方法を学習する。 ・WWW上の検索サービスを利用して，必要な情報をさがしてみる。 ・ブラウザとウェブサーバ，ドメイン名や URL などの用語を学習する。			○	○	○	○	
第2学期	コンピュータ実習	9 ・ 10	・エクセルを使用して、表計算の実習を行う。 ・第4章 Excel2003 1～14 ・テキストを読解する能力を養いながら、各自理解し、実習を行っていく。 ・実習を行う上で体裁の良い表を作成していく。 ・実習が中心であるので、定期考查は行わない。	・表計算の実習を中心に職業訓練もふまえて練習していく。 ・Office2003 ・課題、出席、授業への参加度、実技試験で評価を行う。		○	○	○	○	

	第2章 情報の収集・発信と情報機器の活用 3節 情報の収集・発信における問題点 第4章 情報機器の発達と生活の変化 1節 情報機器の発達とそのしくみ	10 ・ 11 ・ 12	・プライバシーについて学習する ・著作権について学習する。 ・メディアによる特性の違いについて学習する。 ・ネットワークコミュニケーションで配慮すべきことについて、学習する。 ・コンピュータの高性能化について理解する。 ・コンピュータや情報機器のしくみについて、学習する。 ・アナログ信号とデジタル信号の違いと特徴について学習する。 ・データのデジタル化のしくみについて理解する。 ・ネットワークのしくみと活用法について学習する。	・定期考査、プリント、ノートなどの提出物により評価を行う。	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	コンピュータ実習	1	・パワーポイントを使用して、プレゼンテーションの実習を行う。 ・第5章 Power Point 2003 1～12 ・テキストを読解する能力を養いながら、各自理解し、実習を行っていく。 ・基本的な操作を学ばせた後に応用として、テーマ（一例：自己紹介）を決めさせて、全員の前で実際にプレゼンテーションの発表会を行う。 ・実習が中心であるので、定期考査は行わない。	・プレゼンテーションとは、情報を確実にわかりやすく伝える一つの方法であることを理解させる。 ・Office 2003 ・課題、出席、授業への参加度、実技試験で評価を行う。		○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 ・主に実習を行っている期間については、課題、作品の提出を求める。 ・主に座学を行っている期間については、プリント、ノートなどの提出を求める。									
【1・2・3学期における評価方法】 ・主に実習を行っている期間の評価については、課題、出席、授業への参加度、実技試験で評価を行う。 ・主に座学を行っている期間の評価については、定期考査、プリント、ノートなどの提出物により評価を行う。									

教科名〔 情報 〕

科 目 名	単 位 数	学 年 ・ 組	担 当 者 名
情報 A	2 単位	第 3 学年 1 ～ 6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	問題解決にコンピュータを利用する際の必要な考え方を理解させる。 情報技術の面から、情報社会を考え、情報社会に参画する態度を身につける。
使用教科書・副教材等	第一学習社 情報 A / 0 6 8 Office 2003

2 学習計画及び評価法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 1 .学 習 活 動 の 特 記 事 項 2 .副 教 材 の 使 用 な ど	考 査 範 囲	評 価 の 観 点 の ポ イ ン ト				
						態 度	関 心 ・ 意 欲	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
第 1 学 期	オリエンテーション コンピュータ実習	4 ・ 5	・ワードを使用して、ワープロの実習を行う。 ・第3章 Word 2003 1～19 ・テキストを読解する能力を養いながら、各自理解し、実習を行っていく。 ・実習を行う上で体裁の良い文章を作成していく。 ・基本的な操作を学ばせた後に応用として、カレンダーや個人の時間割表などの課題を与える。 ・実習が中心であるので、定期考査は行わない。	・ワープロの実習を中心に職業訓練もふまえて練習していく。 ・Office 2003 ・課題、出席、授業への参加度、実技試験で評価を行う。		○		○	○	○
	第2章 情報の収集・ 発信と情報機器の活用 1 節 インターネット	6 ・ 7 ・ 8	・コンピュータネットワークのしくみについて理解する。 ・電子メールの Subject:や本文の適切な形、電子メールが配送されるしくみについて学習する。 ・電子メールの送受信など、具体的な操作方法を学習する	・定期考査、プリント、ノートなどの提出物により評価を行う。	第 1 学 期 期 末 考 査	○		○		○
	2 節 ウェブページの しくみ		・WWW上の検索サービスで、たどるディレクトリや入力するキーワードの適切なものを選ぶ方法を学習する。 ・WWW上の検索サービスを利用して、必要な情報をさがしてみる。 ・ブラウザとウェブサーバ、ドメイン名や URL などの用語を学習する。			○		○	○	○
第 2 学 期	コンピュータ実習	9 ・ 10	・エクセルを使用して、表計算の実習を行う。 ・第4章 Excel 2003 1～14 ・テキストを読解する能力を養いながら、各自理解し、実習を行っていく。 ・実習を行う上で体裁の良い表を作成していく。 ・実習が中心であるので、定期考査は行わない。	・表計算の実習を中心に職業訓練もふまえて練習していく。 ・Office 2003 ・課題、出席、授業への参加度、実技試験で評価を行う。		○		○	○	○

	第2章 情報の収集・発信と情報機器の活用 3節 情報の収集・発信における問題点 第4章 情報機器の発達と生活の変化 1節 情報機器の発達とそのしくみ	10 ・ 11 ・ 12	・プライバシーについて学習する ・著作権について学習する。 ・メディアによる特性の違いについて学習する。 ・ネットワークコミュニケーションで配慮すべきことについて、学習する。 ・コンピュータの高性能化について理解する。 ・コンピュータや情報機器のしくみについて、学習する。 ・アナログ信号とデジタル信号の違いと特徴について学習する。 ・データのデジタル化のしくみについて理解する。 ・ネットワークのしくみと活用法について学習する。	・定期考査、プリント、ノートなどの提出物により評価を行う。	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	コンピュータ実習	1	・パワーポイントを使用して、プレゼンテーションの実習を行う。 ・第5章 Power Point 2003 1～12 ・テキストを読解する能力を養いながら、各自理解し、実習を行っていく。 ・基本的な操作を学ばせた後に応用として、テーマ（一例：自己紹介）を決めさせて、全員の前で実際にプレゼンテーションの発表会を行う。 ・実習が中心であるので、定期考査は行わない。	・プレゼンテーションとは、情報を確実にわかりやすく伝える一つの方法であることを理解させる。 ・Office 2003 ・課題、出席、授業への参加度、実技試験で評価を行う。		○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 ・主に実習を行っている期間については、課題、作品の提出を求める。 ・主に座学を行っている期間については、プリント、ノートなどの提出を求める。									
【1・2・3学期における評価方法】 ・主に実習を行っている期間の評価については、課題、出席、授業への参加度、実技試験で評価を行う。 ・主に座学を行っている期間の評価については、定期考査、プリント、ノートなどの提出物により評価を行う。									